

2012 年度全校修養会について

毎年 11 月の初旬に行われる遺愛の全校修養会ですが、今年は 11 月 6～7 日に遺愛アリーナで行われ、記念すべき第 60 回目となりました。今年 は環境問題をメインテーマに、国際キリスト教大学教授、アジア学院校長を歴任された田坂興亜先生を講師としてお招きしました。主題は『ヒトはどこから来て、どこへ行くのか？』（主題聖句：旧約聖書アモス書 5 章 24 節「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように 尽きることなく流れさせよ」）でした。

2 日間で 3 度の講演をして下さったのですが、最初の講演は、神様がこの宇宙を、地球を、そして私達を最も素晴らしい形で造って下さった。しかし今、人間が創り出したものにより、それらが破壊されつつあり、原子力発電所はまさにその象徴であること。

2 つめの講演では、イースターの悲劇より、現代蔓延している「自分達さえ良ければいい」という発想が、人類全体を滅ぼすことになる。神様が求めているのは、与えられた命を、子孫の代を含めて大切にし、隣人と共に平和に生きることであること。

最後の講演では、アジアやアフリカの方々に有機農業の技術を教えるアジア学院の働きは、まさに「共に生きる」を実践したものであり、人を育て、真の国際交流を進めており、環境問題・食糧問題・平和回復の同時解決を目指していることを語られました。

田坂先生は P C B や D D T など人間が人工的に創り出した有害物質の調査研究をし、1982 年以降はアジア各国の食品に残留する農薬を分析し、安全な食の安定共有のために様々な提案や実践をなさってきた方です。かなり専門的なお話をまじえていましたが、生徒の皆さんにはとても刺激的

な講演になったようです。2 日目最後の「講師を囲む生徒の会」では、会議室に 50 名以上の生徒が集まり、予定時間の 1 時間の倍以上の時間、質疑応答がありました。とても恵まれた修養会でした。

2012 年 11 月 12 日（月）

